

伯雲ブロック

教区設立八十周年記念
松江教会聖堂献堂四十周年記念
ギャリー神学生助祭叙階式

十一月三日、松江市の松徳女学院中高等学校（イエズス孝女会）体育館で伯雲ブロック（米子・出雲・松江教会）主催による広島教区設立八十周年記念行事と、松江教会の聖堂献堂四十周年記念祭、そしてギャリー神学生（フィリピン出身・淳心会）の助祭叙階式が行われ、四百人を超える参加者があった。

教区設立八十周年記念

昨年は広島教区が大坂教区から独立して八十周年の記念の年で、教区では各地区ごとに記念行事を行ったが、伯雲ブロックがその後を飾った。

聖堂献堂四十周年記念

松江教会は、宣教開始から百年以上の歴史を持ち、現在の聖堂が建てられてから四十年目を迎えた。同教会は聖堂の外壁と窓枠を補修するとともに、今後五十年にわたる補修計画を立てた。また、ホームページを開設し、教区案内パンフレットを作成し、聖堂内に小さな資料室を整えた。

助祭叙階式



みことばを(聖書)を託される新助祭

ギャリー神学生(一九才)は、昨年四月から松江教会で司牧の実習をしており、日本人信徒はもとより、松江近郊に住む多数のフィリピン人共同体のメンバーの祝福の中で三末篤實司教の手で助祭の叙階を受けた。

(一面より続き)

二〇〇五年「教区シノドス」(仮)を開催

二〇〇三年六月の教区宣教司牧評議会は、二〇〇二年の教区大会以後の教区の動きをより具体的な確かなものとし、その方向性を打ち出すことを目的として、「教区シノドス」(仮)を二〇〇五年に開催するよう提案しました。

これを受けて、「第三千年期の教会は、洗礼を受け、堅信を受けたすべての人が、教会生活における積極的な自己の責任に目覚めるよう促さなければなりません。」③との教皇ヨハネ・パウロ二世のことばに励まされ、わたくしは、二〇〇五年秋に「教区シノドス」(仮)を開くことに同意します。ここにおいて、広島教区の歩むべき道と優先課題をまとめることは時宜にかなったことと判断するからです。その準備は、教区宣教司牧評議会常任委員会を中心に進めて行くこととします。テーマについては、これ

から新たに考えていくのではなく、これまで教区大会、教区や地区の宣教司牧評議会と司祭評議会で課題として挙げられたものを参考に、して決めることとなります。

むすび

主イエスに「沖に漕ぎ出さなさい」と語りかけられた時、ペトロは「お言葉ですから、網を降ろしましょう。」(ルカ5章5節)と信仰の言葉を発しました。

神のことばに耳を傾けながら、信頼と希望のうちに、福音宣教の使命を果たしていくために、心をひとつに沖に漕ぎ出しましょう。

そして、二〇〇五年の「教区シノドス」(仮)が、広島教区が二十一世紀の世界へ漕ぎ出す一つの力強いステップとなるよう祈りましょう。

- ①教皇ヨハネ・パウロ二世使徒的書簡「新千年期の初めに」n.58
- ②二〇〇三年八月六日司教メッセージ「祈りと平和―世界平和記念聖堂50年を迎えるために―」
- ③教皇ヨハネ・パウロ二世使徒的書簡「新千年期の初めに」n.46

教区宣司評
開催回数・時間を増やす

十一月の教区宣教司牧評議会において、同会の開催回数を年二回から三回に、時間を二時間から三時間に増やすことが決定された。

岩徳ブロック信徒大会
李大司教を迎えて

十月十九日、下松教会で岩徳ブロック信徒大会が開催された。

大会には韓国の大邱大司教区から李大司教を招き、韓国におけるカトリック教会の歴史について講演を聴いた。

李大司教のための霊的花束を作るために、毎日午前五時から午前〇時まで交代で一ヶ月間祈りつづけた。

防府教会
創立五十周年記念祭

十一月二四日、防府教会が創立五十周年を迎え、三末篤實司教臨席の下に記念行事を行った。

世界平和記念聖堂献堂(建立)五十周年を目前にして

主任司祭 深堀 升治

一瞬にして広島市が焦土と化し、十余万人の人々が犠牲となり、生存者は今も後遺症に悩まされています。あの日の夜、広島市が夜通し真っ赤に燃えていたのを思い出します。しかも火はだんだんとこちらに近づいて来るのです。

同じ夜、十余万人の死者を思い、「あの人達の靈魂はどうなったのでしょうか」と、ふと吐露された司祭がおられました。ラサール神

誕生！「水島JOC」



十月二六日、カトリック水島教会で、JOC（カトリック青年労働者連盟）の新しいグループが誕生し、発足式が行われた。

父様です。

もうこの時から胸中に平和への祈りが宿っていたのでしよう。この話を後で聞かされた時すこいと感じた私です。

記念行事の中心は勿論、八月五日のミサ聖祭にありますが、聖堂記に刻まれている精神を広島司教区の全信徒の皆さんが一人残らず学習して、自己啓蒙して欲しいと切に望んでいます。この聖堂こそキリストの平和の発信地であり、平和の使徒の誕生の場となりますように。

式には東京や大阪、そして広島市内のJOCグループのメンバーと司祭や信徒協力者、そして近隣の司祭や信徒など約三十名も参加した。また、日本JOCの顧問である森一弘司教と広島教区長三末篤實司教より祝福と励ましのことが寄せられた。

水島JOCのメンバーは十五名で、初代会長は夏井麻紀さん。担当はレネ神父。JOCは、創立者のカルデン枢機卿の「世界の中の金・銀よりも、たった一人の青年は価値がある」という呼

【ブラジル人司牧のその後】

Sr. 八木橋 裕子

今から約二十年前、ブラジルの経済状態が悪化したことにもない多くの日系ブラジル人が日本に働きにやって来ました。当時は真面目に働けば、数年後には蓄えを持って帰国し、家を建て入ることが出来る程の稼ぎを得る人も居ました。

現在バブルがはじけてからも日本に出る人が集まった働いて若者たちによる、自己と社会を変革するための国際的運動。

かつては日本でも全国的に運動が繰り広げられた。しかし、ここ数年は教区内外の青年活動と同じくJOCグループも全国的に減少した。

そのような中で新しいグループが誕生したことは、JOC運動にとってだけではなく、日本のカトリック教会にとっても大きな希望のしるしとなる。

稼ぎに来る日系人は相変わらず続いています。しかし最近では職場で解雇される人々もあり、生活は難しくなってきました。二、三年働いて帰国するつもりが、何年たっても経済的に思わしくなく、ビザの更新を繰返して留まっている家族も少なくありません。最近では、覚醒剤を使用し、犯罪を犯して拘留所に入っている気の毒な日系ブラジル人も居ます。多くの場合、その後ろには暴力団が存在しているようです。

私は日本語が難しい彼等と弁護士のために通訳を頼まれ、度々拘留所に入ったりして居ます。日本では一度犯罪を犯すとビザは効力を失い、強制送還になります。が、旅費の工面がつかない間は入管に留め置かれます。

もちろん、多くのブラジル人労働者は善意の人たちですが、生活の苦しさから間違いを犯す同僚の為に、他の人々が疑いの眼差しで見られるのを見るのはとても残念です。苦しい状況の中でも、目標をもって計画的に働く人

もおり、今年は私が接していた二家族が十数年ぶりで行き来するようになりました。その中の一家族は日本で得た資本を基に商売を始め、うまくいっているようです。道で、又は近所で日系ブラジル人、或いは他の外国の方に出会う時、「私たちは皆兄弟」という気持ちで挨拶をすると、周りが明るくなると思いませんか。

カトリック新聞の向上に、

あなたも参加！

日本のカトリック教会が発行する唯一の全国紙である「カトリック新聞」を、あなたはお読みですか。是非この機会にカトリック新聞購読の契約をし、カトリック新聞の資質向上に貢献しましょう。

今春から、メリノール会のグリム神父様が就任された内容の充実にと燃えていらっしゃいます。この新聞を読んで、教皇様の動勢、御意向、カトリック教会の世界の動き、日本国内の情報を得て、共に神のみ国の到来に向けて祈り、働きましょう。

巡礼 2003



巡礼の歴史は古く、すでに中世においてローマ、エルサレム、サンチアゴは三大聖地となり、多くの巡礼者がそこを目指していました。現代の巡礼者の気持ちはどうなのでしょう。尾道教会の山口神父と教区事務局長の服部神父に寄稿してもらった。

創立80周年公式巡礼に参加して

山口 道晴 神父

十一月十七日。三末司教と共に関西国際空港に集まった人たちは、二十五名。

広島はもとより島根や山

口、鳥取、岡山さらに遠く長崎からの参加者もあった。巡礼の旅はアッシジから始まり、聖フランチェスコの精神を学ぶ一日となった。

次日の朝、八時過ぎにバスに乗り、教皇さまの謁見に出かけそこでローマ在住の浜尾枢機卿にも会うことができた。教皇さまは、比較的元気な声で挨拶されていたのが印象的だった。



聖ペトロ大聖堂前にて

昼食後、奇しくも、イラクで亡く

なった二十数名のイタリアの兵士の葬儀が前日にバジリカ・サンパウロで行われ、一行は献花の残る大聖堂を見学した。

巡礼が始まって四日目、司教さまと一緒に二人の方



アッシジ：聖フランシスコゆかりの聖堂前

が帰国され、一十二名でヴァチカン博物館、三大バジリカを見学してローマでの巡礼を終えた。

朝早くローマのダヴィンチ空港から、パリ経由でトゥルーズの空港へ飛び、バスで一路ルルドへ向かった。

ルルドでの二回目のミサは、洞窟で。祭壇を囲んでの祭儀・沐浴・その他多くの事柄にあつという間に時間が過ぎた。

パリからベルナデッタが眠るヌベールまでバスの旅。ヌベールの巡礼は、修道院

でのミサや食事・静かな祈りの中で過ごしたのんびりした印象が残っている。パリに戻ってから、「不思議なメダイ教会」を訪ね日本人のシスターから説明を聞くことができた。

今、振り返るとかなりハードでせわしない巡礼の旅であったような気もしている。

しかし、参加した人たちにとって、深い印象と充実した日々であったようである。自らの信仰を振り返るとても良い機会になったのではないかと考えている。

サンチアゴ・デ・コンポステーラ巡礼

服部 大介 神父

昨年の夏、カトリックの三大聖地の一つとされている「サンチアゴ・デ・コンポステーラ」への巡礼をし

ました。フランスの国境の町からピレネー山脈を越え、スペインのその地までおよそ800キロの道のりを、三人の仲間と共にひと月かけて歩いたことになりました。

さすがに一ヶ月の道のりは長く、たとえ一日30キロ進めたとしても800キロという



サンチアゴ大聖堂の前で巡礼証明書を手にして

先のことを考えると本当に最後までたどり着けるのか、不安いっぱいでの旅立ちでした。そしてまさに初日から、巡礼路の認識不足もあり、重い荷物を持ってピレネー山脈を越えることがど



ルルド：グロット(洞窟)でのミサ

どんな教区よその教区 ⑩ 高松教区

～四国の福音宣教、国際宣教神学院～

高松教区は四国四県を統括しています。教区の規模として那覇教区に次いで日本で下のほうから二番目に小さい教区です。四国全体の人口は約400万人ですが、その中でカトリック信者数は約5000人で人口に占める信者数が日本で最も少ない教区でもあります。その原因としては古くからある伝統仏教の影響もあり、また人々の生活習慣が割と保守的で新しいものを進んで受け入れていくことにはなじんでいないこともあるように思われます。

高松教区では教区司祭以外に、ドミニコ会、オブレート会、スペイン宣教会の司祭方が働いておられ、ドミニコ会は愛媛県を、オブレート会は徳島県と高知県、そしてスペイン宣教会は香川県西部の小教区の宣教・司牧に従事されています。高松教区では各小教区の主任司祭と助任司祭と小教区信者の結びつきを第一に考えいまだに小教区主任司祭制度を保っています。

その高松教区に1990年に国際宣教神学院が設立され、今まで25人以上の司祭がそこから巣立っていきました。現在高松教区以外に、新潟、大分、鹿児島の3教区に7人の司祭が派遣されて働いています。

当教区の課題としては、最初にあげた伝統仏教の影響の強い四国でどのようにして福音化を推し進めていくのが課題となっていて、それに対する試みとして、小教区信者のいない地域で、小教区を離れたところでの福音宣教の試みをしています。

また、国際宣教神学院が全ての教区の信者に受け入れられているわけではなく、中には強く反対する人もいる現状で、いかにして人々にこの神学院が受け入れられるようになるのかを模索し、話し合いによって人々から理解され受け入れられるように努力していくことももう一つの課題です。

(高松教区事務局長 佐々木神父)



巡礼の出発地：サン・ジャン・ピエード・ポール(フランス)

れだけ大変なことかを思い知らされることになりました。本当にたくたくに疲れ切つて、今だけで精一杯、先のことなど考える余裕も全くなくなってしまったのです。そうなる不安どころか、逆に一日を精一杯歩き終え、その日の宿に着いた時のありがたさと、今日もここま

長い旅であればあるほど、明日はまた大変なのだけど、今日一日をがんばれたということに満足できるのではないのでしょうか。しばらくして旅にも慣れ、巡礼の大体の様子も分かり、先が見え始めた時の方が、これからのことを考えたり悩んだりして、今考えても不思議だと思っ

ています。「その日の苦労はその日だけで十分である」、まさに一日の旅の終わりに仲間と一緒に乾杯したビールは格別でした。歩みを終えて一番感じたことは、巡礼ができることの恵みです。肉体的なことだけでなく、金銭的、時間



〈新刊書紹介〉
『日本語で話しつづけた教皇ヨハネ・パウロ二世』
ローマにおいてパパ様の日本語教師として活躍された西山達也神父様(コンベンツァル聖フランシスコ修道会)が、やさしく、楽しく、知られざる「パパ様のコボレ話」を語ります。

本書の後半は、ローマにおいて十三年もの間、毎週水曜日的一般謁見の際に、パパ様ご自身が語った「日本語によるスピーチ」集。もちろん広島教区巡礼団に

青少年活動 告知板

《あっちこっちミサ》

全国の「あっちこっち」で、青年たちが同時刻にミサを捧げることによって連帯を深めようというものです。

青年から自分たちが作った共同祈願を交換し合った



宣教師にあこがれて

職町教会助任司祭

ジェリー・レクダク

私が生まれ育ったのはインドネシアの南セレベスのトラジャというところです。小さい頃から、自分が出会っていた宣教師のような聖職者になりたいという思いがありました。病人のケ

り、同じ聖歌を歌ったりなどして工夫します。

青年でない人、何をしていいるんだと疑問に思う人、単に興味のある人、誰でも気軽に参加できます。

二月二十九日午後三時から、広島では観音教会で行います。

《大学生大会》

第二回広島教区カトリック大学生大会を開催します。

昨年は夏に開催しましたが、今年は春の開催です。

この春大学生になる人も大いに歓迎です。

日ごろ考えていること、感じていることを、いろいろなテーマごとに分かち合ったり、楽しい交流会をします。

青春バクハツ／みんな来てネ。

*三月二四日〜二七日

*福山少年自然の家

*詳細問合せ・申込み先
田代茉莉(090-2809-0709)
辻村 彩(080-1923-2062)
《高校生大会(中プロ)》

三月二七日から三十日。

今年岡山地区の高校生がメインを担当します。典礼は岡山地区、レクリエーションは広島地区がそれぞれ担当します。みんな一年間かけて準備しました。

高校生自身による楽しい企画がいっぱいです。テーマは『個性〜ここから始まる個々カラー〜』。それぞれ新しい出会いと感動をいっぱい体験して自分の個性を見つけてくることのできたらと思います。

この春高校生になる皆も参加できます。詳しくは教会に配布された申し込み用紙を見てください。



「キリスト信者は、常に断するか」を問う。

「イラクに自衛隊を派遣することは是非か」。

キリストなら、「国益」つまり、自分たちの利益を理由とする派遣に賛成するはずがない。

キリストなら、「すでに開戦に賛成し、派遣を約束したから」という理由にも賛成しないであろう。真理(神の心)の前では人間のメンツは無に等しい。十字架はその答えである。(さ)

ひま



〈41〉

「夢を抱く人は幸いです。でも、もっと幸いな人は夢をかなえる人です。」
このメッセージは私の心

アをしたり、いろいろな問題解決の手助けをしてくれる宣教師たちの姿を見て、とてもあこがれていました。高校生のとき、一人の淳心会の神父様が一冊の雑誌を送ってくれました。その中に、淳心会のメッセージを見つけました。



「夢を抱く人は幸いです。でも、もっと幸いな人は夢をかなえる人です。」
このメッセージは私の心